

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
福祉心理学基盤演習 II		必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
瀧口 綾 他	B305	atakiguchi	月曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt; 「福祉心理学基盤演習 I」の内容を踏まえ、社会福祉学や心理学の理論や知識を基盤としたコミュニケーションの基盤を学び、さらに理解を深めることを目的とする。また、自己理解に基づきながら、社会との良いかかわりについて体得することを目的とする。</p> <p>&lt;概要&gt; 自己と社会とのかかわりに関する調査・分析、その成果の発表や討論を通して、社会的存在としての人を意識して、自分のライフデザインについて理解を深めるための演習を行う。</p> <p>&lt;概要&gt; 社会的存在としての人を意識し、自分のライフデザインについて理解を深めるために、自己と社会とのかかわりに関する調査・分析、その成果の発表や討論等の演習を行う。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input type="checkbox"/> その他 (      )				
学習上の助言	社会の中で自分らしく生きることができるよう、自分自身に関する理解をさらに深めて欲しい。そのために積極的に授業へ参加して欲しい。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布する。				
参考書	適宜紹介する。				
外部教材	なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	社会福祉学や心理学における自己理解の理論や知識を理解し、説明することができる。			HSU(1)、(2)、(3)、HC(5)	
②	自己理解に基づいたコミュニケーション力を身につけ、実践することができる。			HSU(1)、(2)、(3)、HC(6)	
③	人と社会の多様なかかわりについて理解し考察できる。			HSU(2)、(3)、HC(3)、(6)	
④	社会の中で自己理解に基づいた自己表現ができる。			HSU(2)、(3)、HC(4)、(6)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション 自己理解とライフデザイン (1) ライフデザインについて学ぶ。	講義・演習	配付資料をもとに授業後に振り返りを行う。	2	
2	自己理解とライフデザイン (2) ライフデザインの実例を知る。	講義・演習	スピーカーの話の内容をまとめ整理する。	3	
3	自己理解とライフデザイン (3) 自分のライフデザインを考える。	講義・演習	ワークシートを用いて自分のライフデザインを吟味する。	5	
4	業界・企業研究を通して社会とのかかわり方を知る (1)	講義・演習	業界・企業の情報収集を行う。	3	
5	業界・企業研究を通して社会とのかかわり方を知る (2)	講義・演習	業界・企業の情報を整理し、発表の準備をする。	3	
6	業界・企業研究を通して社会とのかかわり方を知る (3)	演習・プレゼンテーション	発表を行い、授業後に振り返る。	5	
7	自分のライフデザインをまとめる。	講義・演習	自分のライフデザインを整理し、発表の準備をする。	3	
8	自分のライフデザインを発表する。	演習・プレゼンテーション	発表を行い、授業後に振り返る。	6	
試	/				

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		0	30	30	0	40	100	
総合 力 指 標	知識・技術力	0	10	5	0	0	15	
	思考・推論・創造する力	0	0	5	0	10	15	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	10	10	0	0	20	
	コミュニケーション力	0	10	10	0	10	30	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	20	20	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①	✓	最終課題レポートについて、出題意図に沿った内容が記述できているか、テーマに応じた思考・考察ができていないか、相手に伝わる表現方法がされているかという観点で評価する。				各自が提出したレポートにコメントを付して返却する。	
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
成果発表	①	✓	与えられたテーマに関して求められている内容を理解し、発表できているか、相手に分かりやすく伝えることができているかなどの観点で評価する。				発表後に講評を行う。	
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	各授業において実施するワークへの取り組みや意欲、課題の提出状況に基づいて評価する。				ワークや課題にコメントを付して返却する。	
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員	前川 真奈美、宇賀 美奈子							
教員の実務経験	なし							
実践的授業の内容	該当せず							
そ の 他	Microsoft Teams を用いて諸事の連絡を行うので確認を怠らないこと。 大学が公表している感染対策及び教員が示す授業方法を遵守すること。従わない場合は受講を認めない場合がある。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更が行われる場合もある。							